

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

再生・新生・共生

高田ロータリークラブ  
今年のスローガン

ロータリーを楽しもう！  
夢と誇りをもって



2022-2023年度

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ  
第2560地区ガバナー 高橋 秀樹  
高田ロータリー会長 高橋 正彦  
幹事 飯塚 宏佳

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL(025)526-3111

広報・会報・雑誌委員会：  
伴 長門・齋藤俊幸・藤林陽三・出澤英則

第 24 回例会 2月3日(金)

No.24

会長挨拶 ●高橋正彦



皆さんこんにちは。

本日2月3日は節分です。節分という言葉には季節を分けるという意味があり、本来は季節の始まりの日である二十四節気の立春・立夏・立秋・立冬の前の日のすべてを指し、年に4回あります。

太陰太陽暦では立春を元日とし、新年の始まりであることから前日の節分に行事が行われるようになったと言われていました。

では、具体的に何をやる日なのだろうか。一般的に邪気を払い無病息災を願う行事、と言われていました。季節の変わり目は邪気が入りやすいと考えられ、この時期はまだ寒く体調を崩しやすいことから、邪気を祓い清め、一年間の無病息災を祈る行事として追儺という行事が平安時代より宮中行事として行われるようになったと言われており、しかし江戸時代には行われなくなったと言われ、いつ頃からか、追儺は豆をまいて鬼を払い、無病息災を願う節分という行事として庶民の間に広まったと言われていました。

節分とうい豆まきを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

最近では、豆まきに加え恵方巻を食べることが多く行われるようになったように思われます。

恵方巻の起源・発症は諸説あるようですが、有力なのは大正時代大阪の花街で、節分の時期に商売人らが芸子たちと一緒に座敷遊びをするとき、商売繁盛を願って巻寿司を食べていたそうです。当時は、恵方巻と言わず丸かぶり寿司・太巻き寿司などと言われていたといわれています。その後1980年代にセブンイレブンが恵方巻という名前をつけて売出して全国で認知されるようになったと言われます。

皆さん、今晚は豆まきそして恵方巻を食べて、無病息災を願いましょう。ちなみに、恵方巻を食べる今年の恵方は、南南東です。

本日の卓話は、陸上自衛隊高田駐屯地 司令比嘉隼人様です。演題は日本の防衛です。ご清聴お願いします。

出席報告

出席率 96.00%

ビジター

陸上自衛隊高田駐屯地広報班班長 高橋 広 様

ニコニコ BOX 紹介

石田誠夫君：スリランカの皆さんに喜んでもらえました。

委員会報告

社会奉仕委員会：2/17 オークション物品提供のお願い  
親睦委員会：親睦委員会：会員お誕生日 各お祝い



神田和明君：退会の挨拶  
大島 誠君：4/22 特別能公演のご案内

配布物：会報No.23、ロータリーの友 2月号、4/22 特別能公演会のご案内  
回覧物：ガバナー月信 2月号

卓 話

日本の防衛



陸上自衛隊高田駐屯地 司令 比嘉 隼人 様

1 情勢認識

自由で開かれた安定的な国際秩序は、冷戦終焉以降に世界で拡大したが、パワーバランスの歴史的变化と地政学的競争の激化に伴い、重大な挑戦にさらされている。その中で、国境を越えて各国が協力して対応すべき諸課題も同時に生起しており、国際関係において対立と協力の様相が複雑に絡み合う時代になっている。

また、我が国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、我が国周辺では軍備増強が急速に進展し、力による一方的な現状変更の圧力が強まっている。さらに、科学技術の急速な進展が安全保障の在り方を根本的に変化させ、各国は将来の戦闘様相を一変させる事態となっており、

こうした動向によって従来の軍隊の構造や戦い方に根本的な変化が生じているとともに、サイバー領域や情報戦の展開等、グローバルな安全保障上の課題も存在する。

2 我が国周辺国等の軍事動向

- (1) 中国は、2022 年度には我が国の防衛関係費の約 4.8 倍に達し、我が国を上回る海上・航空アセットの保持、宇宙・サイバー等の新たな領域における能力の強化、多数の核戦力の保持等の軍事力を高め、いわゆる第一列島線を越え、第二列島線に及ぶ我が国周辺全体での活動を活発化。また、台湾統一について武力行使の放棄を約束しないと表明。我が国と国際社会の深刻な懸念事項
- (2) 北朝鮮は体制を維持するため、大量破壊兵器や弾道ミサイル等の増強に集中的に取り組んでおり、技術的には我が国を射程に収める弾道ミサイルに核兵器を搭載し攻撃する能力をすでに保有しているとみられる。従前より一層重大かつ差し迫った脅威
- (3) ロシアによるウクライナ侵略は国際秩序の根幹を揺るがすものであり、我が国周辺においても新型装備の配備や大規模な軍事演習の実施等軍事活動を活発化させており、中国との戦略的な連携と相まって防衛上の強い懸念

3 国家防衛戦略

(1) 防衛上の課題

どの国も一国では自国の安全を守ることはできない中、外部からの侵攻を抑止するためには、共同して侵攻に対処する意思と能力を持つ同盟国との協力の重要性が再認識されている。脅威は、能力と意思の組み合わせで顕在化するが、意思を外部から正確に把握することは困難である。

このため、自国を守るためには、力による一方的な現状変更は困難であるという認識させる抑止力が必要であり、相手の能力に着目した自らの能力を保持し、相手に侵略する意思を抱かせないようにする必要がある。戦い方も、従来の航空・海上・着上陸侵攻といった伝統的なものに加え、ミサイル攻撃、ハイブリッド戦、非対称的な攻撃、核兵器による威嚇にも対応できるようにしなければならない。

(2) 我が国の防衛の基本方針

防衛力については、相手の能力と戦い方に着目して、我が国を防衛する能力をこれまで以上に根本的に強化するとともに、新たな戦い方への対応を推進し、いついかなる時も力による一方的な現状変更やその試みは決して許さないとの意思を明確にする。そのため、防衛目標を明確にし、達成するためのアプローチと具体的な手段を示し、あらゆる努力を統合して実施していく

(3) 我が国自身の防衛体制の強化

抜本的に強化された防衛力は、我が国自体への侵攻を我が国が主たる責任をもって阻止・排除し得る能力を保持する。これは相手にとって軍事的手段だけでは我が国侵攻の目標を達成できず、生じる損害というコストに見合わないことを認識させえるだけの能力を我が国が持つこと。それにより、米国の能力と相まって、我が国への侵攻のみならず、インド太平洋地域における力による一方的な現状変更やその試みを阻止、それを許容しない安全保障環境を創出

新しい戦い方に対応するため必要な機能・能力として

ア 我が国への侵攻そのものを抑止するために、遠距離から侵攻戦力を阻止・排除

①スタンダード・オフ能力、②統合防空ミサイル防衛能力

イ 抑止が屋分された場合、①、②の能力に加え、領域を横断して優越を獲得し、非対称的な優先を確保  
③無人アセット防衛能力、④領域横断作戦能力、⑤指揮統制・情報関連機能

ウ 迅速かつ粘り強く活動し続けて、相手方の侵攻意図を断念

⑥機動展開能力・国民保護、⑦持続性・強靭性